

開 講 科 目 案 内

本校ではSemester（半期終了）制度を取り入れています。

履修する曜日・時間帯によっては、2単位の科目でも週2回授業を行い、半期で終了する講座がありますので御注意願います。

- ・履修に当たっては、本校生徒と同様の授業形態です。定期テストの受験や、レポート・課題の提出がありますので御承知おきください。
- ・4単位科目で週2回授業のある科目 → 1年間継続
- ・2単位科目で週1回授業のある科目 → 1年間継続
- ・2単位科目で週2回授業のある科目 → Semester科目（半期で終了）
（後期Semester科目も4月に登録してください。原則として前期と同じ科目は登録できません。）
- ・同じ科目は、同一年度に1講座しか登録できません。あらかじめ御承知おき下さい。
（例えば、Semester科目「書道Ⅱ」を前期、後期に登録はできません。）
- ・同じ科目を年度をまたいで登録することはできません。
- ・本校生徒の登録状況により、開講されない場合や定員オーバーのため登録できない場合があります。

※ 週2回授業のある科目は必ず2回とも出席してください。

日課表

時 限	月 ～ 金
第 1 時 限	8 : 4 0 ～ 1 0 : 1 0
第 2 時 限	
休 憩	1 0 : 1 0 ～ 1 0 : 2 5
第 3 時 限	1 0 : 2 5 ～ 1 1 : 5 5
第 4 時 限	
休 憩	1 1 : 5 5 ～ 1 2 : 4 0
第 5 時 限	1 2 : 4 0 ～ 1 4 : 1 0
第 6 時 限	
清 掃	1 4 : 1 0 ～ 1 4 : 2 0
休 憩	1 4 : 2 0 ～ 1 4 : 4 0
第 7 時 限	1 4 : 4 0 ～ 1 6 : 1 0
第 8 時 限	
休 憩	1 6 : 1 0 ～ 1 7 : 3 0
第 9 時 限	1 7 : 3 0 ～ 1 9 : 0 0
第 10 時 限	
休 憩	1 9 : 0 0 ～ 1 9 : 1 0
第 11 時 限	1 9 : 1 0 ～ 2 0 : 4 0
第 12 時 限	

※チャイムは、鳴らしません。

<令和8年度 開講予定科目案内>

国 語

現代の国語	①論理的な文章を読み、実社会に必要な国語の知識や技能について学ぶ。 ②目的や場に応じて、聞き手に情報が伝わるように、効果的に表現する。
言語文化	①授業で扱う随筆や小説等を読み、感じたことや考えたことを言語化する。 ②古典の基礎を理解し、授業で扱う章段の内容を把握する。
論理国語	①評論文や実用文を題材として、構成や要点を捉え、論理的に読む。 ②構成や文のつながりを意識して、根拠を明確にして論理的な文章を書く。
文学国語1	様々な文章を読んで、言語文化に対する理解を深める。 小説や随筆、詩など、幅広い学習教材(古典含む)に取り組み、多様な意見・解釈を出し合う。
文学国語2	様々な文章を読んで、言語文化に対する理解を深める。 小説や随筆、詩など、幅広い学習教材(古典含む)に取り組み、多様な意見・解釈を出し合う。
国語表現1	自己PRの方法、意見文、小論文などの書き方を学び、実践する。 「書くこと」の領域のみを扱う。
国語表現2	電話応対、面接、スピーチなど、話したり聞いたりして表現する方法を学び、実践する。 「話すこと・聞くこと」の領域のみを扱う。
古典探究	古典の文章を読み、辞典や文法書を使って現代語訳したり、その内容について吟味したりする。
論理国語演習	現代文の発展的な問題演習を通して、基礎学力の確実な定着と実践的な読解力・理解力を身につける。 50分で問題を解き、20分程解説を加え、残り時間で見直す。
古典探究演習	古典の発展的な問題演習を通して、基礎学力の確実な定着と実践的な読解力・理解力を身につける。 50分で問題を解き、20分程解説を加え、残り時間で見直す。
国語入門	必修科目の単位修得に向けて、国語の基礎・基本を確実に身につける。漢字、主語・述語、感情をあらわす語、対義語・類義語、接続関係、具体と抽象等を学び、文章を読解する。
小論文研究	小論文の書き方に関する基礎知識を身につけ、テーマに応じたまとまりのある文章、意見文、小論文の作成に取り組む。

地歴公民

地理総合	地理情報システムを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組を理解する。
地理探究	地理に関わる諸事象の空間的な規則性や、世界の諸地域の地域的特色を理解している。 地理的な課題について、系統地理的、地誌的に考察し、主体的に解決しようとする態度が身につけている。
歴史総合	基本的な近代の歴史の流れを、自分自身の今につながる歴史として把握し、今後の世界の中で、日本が果たすべき役割を考えられるようになる。
日本史探究	基本的な歴史の流れを、自分自身の今につながる歴史として把握し、今後の世界の中で、日本が果たすべき役割を考えられるようになる。
世界史探究	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。
公共	人間と社会のあり方について広い視野から理解を深め、現代の諸課題について主体的に考え、公正に判断する力をつける。
倫理	人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究する活動を通して、人間尊重の精神に基づいて、公民としての資質・能力を育成する。
政治・経済	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究する活動を通して、広い視野に立ち、社会の形成者の一員として主体的に生きる力をつける。
発展公共	国際平和と人類の福祉に寄与しようとする自覚を深めることに向けて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

数 学

数学Ⅰ	数と式、二次関数、図形と計量及びデータの分析について理解し、基礎的な知識や技能を身につけ、的確に活用することを目指す。
数学Ⅱ	方程式と図形の性質など事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察し、問題解決の過程を統合的・発展的に考察できるようになることを目指す。
数学Ⅲ	極限、微分法及び積分法についての理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすことを目指す。
数学A	図形の性質及び場合の数と確率について理解し、基礎的な知識や技能を身につけ、事象を数学的に考察することを目指す。
数学B	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し日常の事象や社会の事象を数学化し、考察することを目指す。
数学C	ベクトル、平面上の曲線、複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することを目指す。
数学入門	数学のよさを認識し、数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学を活用しようとする態度の基礎を身につけることを目指す。
数学ⅠA演習	基礎的及び発展的な演習等を通して、数学ⅠAの目標・内容に示された資質・能力を身につけることを目指す。
数学ⅠⅡABC演習	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B、数学Cの問題演習を通して、応用力を身につけることを目指す。

理 科

科学と人間生活	自然と人間生活との関わり・科学技術が人間生活に果たしてきた役割を知り、科学に対する興味・関心を高める。
物理基礎	①身近な物理的現象に関する基本的な概念や原理を、物体の運動とエネルギーの観点から理解する。 ②日常生活と物理学の関係を理解し、探究する方法と態度を身に付ける。
物理	理系大学進学希望者、大学入学共通テストを受験予定の生徒、物理基礎の学習で興味を深めた生徒（※理解を深めるためには、数学Ⅱおよび数学Bを履修した後が好ましい） ①身近な物理的現象への探究心を高め、観察・実験に意欲的に取り組む態度を育てる。 ②自然界に見られる多くの現象が物理的法則によって支配されていることを理解する。
化学基礎	①物質とその変化への関心を高め、化学的に探究する能力と態度を養う。 ②化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
化学	理系大学進学希望者、大学入学共通テストを受験予定の生徒、化学基礎の学習で興味を深めた生徒（※理解を深めるためには、数学Ⅱを履修した後が好ましい） ①科学的な考え方を意識して授業に参加し、実験や課題解決学習に主体的に取り組む。 ②実験に積極的に取り組み、結果に対して科学的考察を行いレポートを作成する。
生物基礎	日常生活や社会との関連を考えながら、身近な生物現象について基本的な概念や原理法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
生物	①理系進学希望者及び進路先で生物学の知識を必要とする生徒 ②生き物や生物学に興味を持ち、意欲的な姿勢で授業に取り組む生徒 ①生物学的な事物・現象に関心を持ち、主体的に探究しようとする意識を育てる。 ②生物学の原理・法則について理解を深め、科学的な自然観を身に付ける。
地学基礎	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を持ち、地学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な見方や考え方を身に付ける。
化学基礎演習	化学基礎を受験で利用する進学希望、また進路上授業内容を復習、定着させたい生徒（大学入学共通テスト、大学短大一般入試、医療看護系専門学校入試等） ①「化学基礎」の基礎的事項について、復習を行い確実な定着と理解を図る。 ②化学の基本的概念や原理・法則を深く理解し、科学的な見方や考え方を養う。
生物基礎演習	生物基礎を受験で利用する進学希望、また進路上授業内容を復習、定着させたい生徒（大学入学共通テスト、大学短大一般入試、医療看護系専門学校入試等） ①「生物基礎」の基礎的事項について、確実な定着と理解を深めるために問題演習を行う。 ②演習を通して生物学の基本的概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

保健体育

保健	自他の健康や取り巻く環境に関心を持ち、健康・安全に関する知識や技能を習得するとともに、生涯を通じて自らの健康・環境を適切に管理し、改善していく力を養う。
----	--

芸術

音楽Ⅰ	音楽の表現と鑑賞の基礎を学びます。表現では、歌唱と器楽、創作の基礎を、鑑賞では幅広いジャンルの音楽を鑑賞し、幅広く音楽の学習を行います。
音楽Ⅱ	音楽Ⅰの学習を深めた内容になります。表現、鑑賞ともにそれぞれの内容をさらに深めていきます。
音楽Ⅲ	音楽Ⅰ、Ⅱの学習をさらに深めた内容になります。自分で選択した分野の学習を深めていくことが中心となります。音楽系の進路を視野に入れた内容も学習します。
音楽ⅠⅡ研究	音楽Ⅰ、Ⅱで学習した中から自分で分野を選択し、研究していきます。音楽系の進路を視野に入れた内容も学習します。自分の研究したいことにじっくり取り組む科目です。
美術Ⅰ	美術の表現と鑑賞の基礎を学びます。表現では対象や事象を捉える造形的な視点についての理解を深め、鑑賞では美術を愛好する心情を育むことを目的とします。
美術Ⅱ	美術Ⅰの内容を深めた学習内容になります。表現では意図に応じて表現方法を創意工夫し創造的に表すことを目指します。鑑賞では美術史的な視点も交え、美術文化に親しむ態度を養います。
美術Ⅲ	美術Ⅰ、Ⅱを履修した生徒が、より主体的に自分の表現について探求する学習内容となります。主題を生成し、個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術に対する見方や感じ方を深めます。
美術ⅠⅡ研究	美術系・デザイン系の大学進学も視野に入れた学習内容となります。対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表現するなど、自分の研究テーマを深く追求するための科目です。
工芸Ⅰ	自然や生活の観察から発想し、木工芸、染色、陶芸などの基礎的な学習を通じて、意図に応じて創意工夫し主体的に創作活動に取り組む態度を養います。
工芸Ⅱ	「工芸Ⅰ」での学習をもとに、木工芸、染色、陶芸などの発展的学習、基礎技能の応用深化を目指します。
工芸Ⅲ	「工芸Ⅱ」の内容を系統立てて引き続き学習し、工芸の各分野に特に深く興味関心がある方のための科目です。
工芸ⅠⅡ研究	美術系・工芸系の進学も視野に入れた内容も学習します。過去に工芸作品の制作を経験された方が、さらに能動的にじっくり深く研究・制作をしていくための授業です。
書道Ⅰ	書道の表現と鑑賞の基礎を学びます。表現では古典臨書と創作の基礎を、鑑賞では古典鑑賞及び相互鑑賞を行い、幅広く書の学習を行います。
書道Ⅱ	書道の表現と鑑賞について深くじっくりと学びます。表現では古典臨書と創作をより発展的に、鑑賞では古典鑑賞及び相互鑑賞をより深く行い、幅広く創造的に書の学習を行います。
書道Ⅲ	書道の各分野に特に深く興味・関心がある方のための科目です。表現技法のみならず書道理論等も理解しながら専門的に学び、集大成として様々な創作作品を制作します。
書道ⅠⅡ研究	書道の表現と鑑賞の学習を通じて、古典臨書作品および創作作品の制作を経験しており、さらに自分の研究テーマを深く追求するための科目です。

外国語

英語コミュニケーションⅠ	書く力・読む力・話す力・聞く力の4技能をバランスよく高めていくとともに、英語による言語活動を通して、コミュニケーション力を身に付けることを目指す。
英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅠで学んだ内容を発展させ、英語の4技能(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと)をバランスよく高めるとともに、教科書の内容を通して、幅広い教養を身に付けることを目指す。
英語コミュニケーションⅢ	4年制大学・短大への進学を希望する生徒を対象に、コミュニケーション英語Ⅱの学習内容を発展させた授業を行う。
論理・表現Ⅰ	コミュニケーションに必要な文法を活用し、事実や意見などを様々な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝達する能力を養うことを目指す。
論理・表現Ⅱ	論理・表現Ⅰの学習内容を発展させ、英語で書くこと・話すことを通して、英語での発信能力をより強化することを旨とする。
英語入門	英語コミュニケーションⅠの前の段階で、中学校での英語の学習内容の理解が十分ではない生徒を対象に、中学校までの英語学習の内容を復習する。

家庭

家庭総合Ⅰ	人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかわりごとと福祉、消費生活、衣生活などに関する知識と技術を総合的に習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。
家庭総合Ⅱ	食生活や住生活などに関する知識と技術を総合的に習得し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。
消費生活	経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、消費者と企業や行政とのかわりごと及び連携の在り方などに関する知識と技術を習得し、持続可能な社会の形成に寄与するとともに、消費者の支援に必要な能力と態度を身に付ける。
保育基礎	子どもの発達の特長や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を身に付ける。

住生活デザイン	家庭科の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、豊かな住生活の実現を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。
ファッション造形基礎	被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得し、ファッション造形の基礎的な能力と態度を身に付ける。
服飾手芸	手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得し、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を身に付ける。
フードデザイン	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

情報

情報 I	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
------	--

工業

工業技術基礎	工業に関する基礎的な技術を実験・実習によって体験し、工業への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解する。
製図	製図に関する基礎的な知識と技術を習得し、図面を正しく読み作成する能力と態度を身に付ける。
工業情報数理 I	数理処理に関する知識と技能を習得し、実際に活用する能力と態度を身に付ける。
工業情報数理 2	情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得し、情報及び情報手段を活用する能力を身に付ける。
生産技術	工業の生産技術に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力と態度を身に付ける。
電気回路	電気に関する基本的な知識と技術を習得し、実際に活用する能力と態度を身に付ける。
電子回路	電子回路に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力と態度を身に付ける。
プログラミング技術	コンピュータのプログラミングに関する基礎的な知識と技術を習得し、実際に活用する能力と態度を身に付ける。
ハードウェア技術	ハードウェアに関する基礎的な知識と技術を習得し、実際に活用する能力と態度を身に付ける。

商業

ビジネス基礎	ビジネスを通じ職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。目標に、(1) 商業の学習とビジネス (2) ビジネスに対する心構え (3) 経済と流通 (4) 取引とビジネス計算 (5) 企業活動 (6) 身近な地域のビジネスの六つの項目について学習します。
マーケティング	ビジネスの場面を想定し、マーケティングについて組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることを目標に、(1) 現代市場とマーケティング (2) 市場調査 (3) 製品政策 (4) 価格政策 (5) チャネル政策 (6) プロモーション政策の六つの項目について学習します。
観光ビジネス	観光ビジネスを展開するために必要な資質・能力を育成することを目指す。目標に、(1) 観光とビジネス (2) 観光資源と観光政策 (3) 観光ビジネスとマーケティング (4) 観光ビジネスの展開と効果の四つの項目について学習します。
簿記	企業において日常発生する取引について適正に記録するとともに、適正な財務諸表を作成するために必要な資質・能力を育成することを目指す。目標に、(1) 簿記の原理 (2) 取引の記帳 (3) 決算 (4) 本支店会計 (5) 記帳の効率化の五つの項目について学習します。
情報処理	企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを目指す。目標に、(1) 企業活動と情報処理 (2) コンピュータシステムと情報通信ネットワーク (3) 情報の集計と分析 (4) ビジネス文書の作成 (5) プレゼンテーションの五つの項目について学習します。
ソフトウェア活用	企業活動においてソフトウェアを活用するために必要な資質・能力を育成することを目指す。目標に、(1) 企業活動とソフトウェアの活用 (2) 表計算ソフトウェアの活用 (3) データベースソフトウェアの活用 (4) 業務処理用ソフトウェアの活用 (5) 情報システムの開発の五つの項目について学習します。
プログラミング	企業活動に有用なプログラムと情報システムを開発するために必要な資質・能力を育成することを目指す。目標に、(1) 情報システムとプログラミング (2) ハードウェアとソフトウェア (3) アルゴリズム (4) プログラムと情報システムの開発の四つの項目について学習します。